

沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施 ～ ボランティア活動&交流会 ～

米海兵隊と王城寺原演習場の地域住民の方々との間の相互理解を深めることを目的に、令和8年2月7日（土）、王城寺原演習場での実弾射撃訓練を終えた米海兵隊の隊員約30名は、大衡村にある「おおひら万葉こども園」を訪問し、ボランティア活動と交流会を行いました。

開会式ではおおひら万葉こども園の碓井理事長、米海兵隊代表のジャロッド・T・パット中尉、来賓の小川大衡村長、池松東北防衛局長の挨拶と園児代表の英語による歓迎の挨拶がありました。

開会式後、米海兵隊員により屋外でのウッドデッキの防腐剤塗装が実施され、海兵隊員は作業用のハケと防腐剤を手に、丁寧かつスピーディーに作業を終えました。

その後実施された交流会ではこども園の職員の皆さまが準備した臼と杵を用いて、碓井理事長、パット中尉、小川村長、池松局長による餅つきにより開始し、園児代表とともに多くの米海兵隊員が餅つき体験を行いました。

次に米海兵隊員全員による振り付けを交えたYMCAの合唱を行い、参加者の手拍子により大いに盛り上がりました。

次にこども園の職員の皆さまにより、日本の伝統文化として津軽甚句とソーラン節の民謡が披露され、さらに、武道の精神と東北の歴史文化を体現するものとして、新撰組と白虎隊の剣舞が披露されました。その洗練された歌声、所作に米海兵隊員達も感動している様子であり、賞賛の声を上げていました。

また、これらの演目の後、参加者全員に3種類に味付けされたお餅が振る舞われ、米海兵隊員達はとても美味しそうに頬張っていました。

米海兵隊のパット中尉からは「今日の交流を通じてお互いの距離が縮まり、訓練を受入れてくださっている地域の方々に対し、とても感謝いたします。」との言葉があり、碓井常務理事からも「ボランティア活動への感謝と友好関係の継続に期待します。」との言葉を頂きました。

